



「軽井沢スキーバス事故」慰霊

法政大学の4人を含む大学生など15人が死亡、26人が重軽傷を負った「軽井沢スキーバス事故」から9年。

法政大学後援会長長野県支部では、今年も現地で慰霊献花を行いました。今年も、本部役員その他、ゼミ生4人を亡くした尾木直樹名誉教授や群馬県支部からもご出席いただきました。

後援会長長野県支部では、軽井沢スキーバス事故から9年を前にした1月13日（月・祝）、軽井沢町の事故現場近くの慰霊碑で、献花し犠牲者を追悼しました。

慰霊には、後援会の長野県支部から23名、本部役員2名、それに今回初めて群馬県支部3名が参加。ゼミ生4人を亡くした尾木直樹名誉教授もご一緒いただきました。

地頭江正美会長は、「日本中が悲しみに包まれた事故。二度と起こることのないよう、法政大学後援会として忘れずに語り継いでいきます」と追悼の辞。

尾木直樹名誉教授は、碑の前に事故で亡くなった4人の写真を置き、「今年もまた来ました」と涙ぐみ、声を詰まらせました。そして「悔しくて仕方ない。残った仲間の学生たちはみんなの分まで生き抜こうと頑張っています。」などと語りかけました。

そして参加者全員で黙とうの後、尾木名誉教授、長野県支部、群馬県支部それぞれ献花し、犠牲になった学生たちを追悼しました。尾木名誉教授が花束を捧げ手を合わせると、雪まじりの風が一瞬強く吹いて写真を揺らし、4人の学生たちがその思いに応えているかのようでした。

現地にはテレビ・新聞多数の社が取材に訪れました。中には、法政大学卒業生の記者もいて、思いを記事として伝えていただきました。

法政大学後援会長長野支部は、学生たちの無念の思いを忘れることなく、このような事故が二度と起こらないことを願い、この活動を続けていきます。

（法政大学後援会HPへの掲載記事と同内容です）



尾木直樹名誉教授は、毎年、慰霊碑を訪れ学生たちを追悼しています。今回、思い切って長野県支部よりお声掛けしたところ、「ぜひ、一緒に」と快く応じてくださいました。お会いすると、「毎年来るたびに後援会の皆さんが思いを寄せているのを知り、とてもありがたい思いでした」と。追悼後のマスコミ取材の中でも、「後援会の慰霊に、元気と勇気ももらっていた」と法政ファミリーの絆について触れていました。



慰霊の後は、軽井沢プリンスホテル内のレストランで、地頭江会長、佐々木総務、群馬県支部の皆さんもご参加いただき、懇親昼食会を開きました。

美味しい食事をいただきながら、話は、子供たちの学生生活や支部運営の悩みなどへ。本部の地頭江会長や佐々木総務が熱心に相談に応じてくださり、今後の支部運営への力をいただくことができました。

長野県支部はもちろん、本部や群馬県支部の皆様との関係を深めることができ、とても有意義なひと時でした。



「長野県支部便り」は支部の動きや情報を随時発信していきます。支部運営へのご協力をお願いいたします。

（副支部長 早川） eijhy@gmail.com

